



いのち
生命支える大地と海
自然と調和するまち・はまなか
～未来につなごう豊かな環境～

第3部

基本計画

- 第1章 大地に根ざし海を拓く活力豊かなまちづくり
- 第2章 自然と共生し景観と調和した快適なまちづくり
- 第3章 健やかで安心して暮らせる福祉のまちづくり
- 第4章 生涯にわたり輝き、未来を創造する人づくり
- 第5章 地域とともに歩む創意に満ちたまちづくり



第3部 基本計画

第1章

大地に根ざし海を拓く 活力豊かなまちづくり

第1節 農業の振興

《現状と課題》

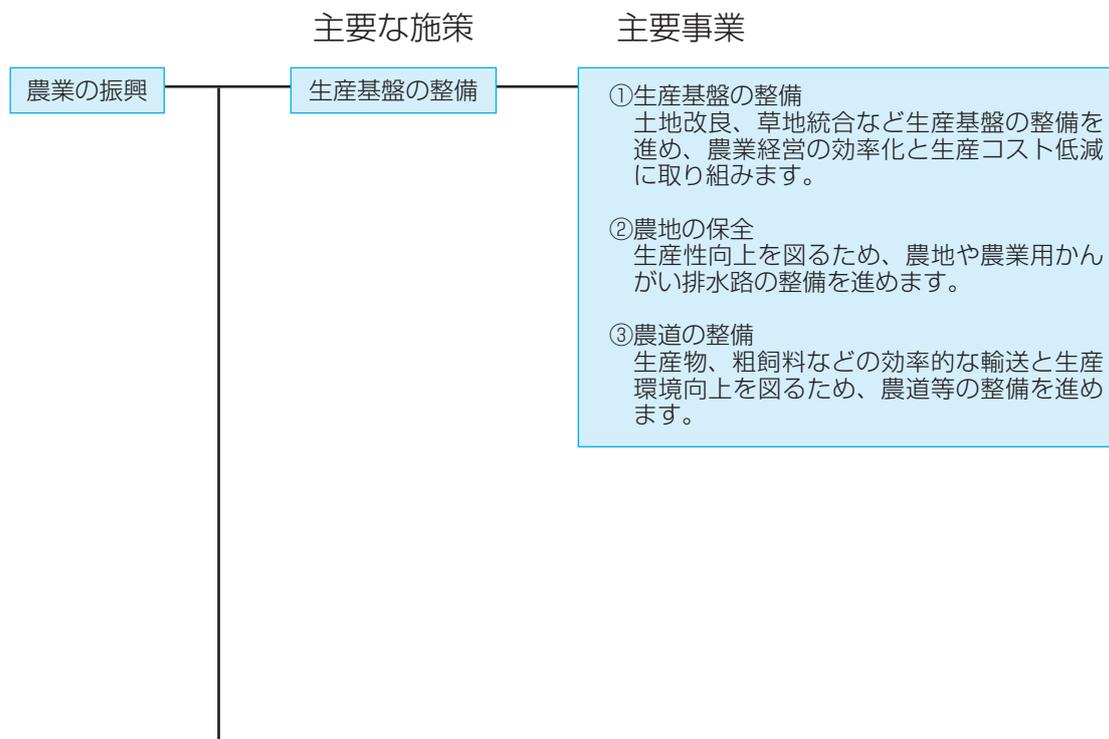
本町の農業は、冷涼な気候と恵まれた土地資源を背景に土地利用型酪農地域として発展を遂げてきました。近年は、穀物価格や原油価格の高騰に関連した生産資材コストの増加と、乳価の低迷により厳しい経営環境にあります。

農家戸数は、高齢化や離農による減少を抑えるため、後継者の育成と担い手の確保が大

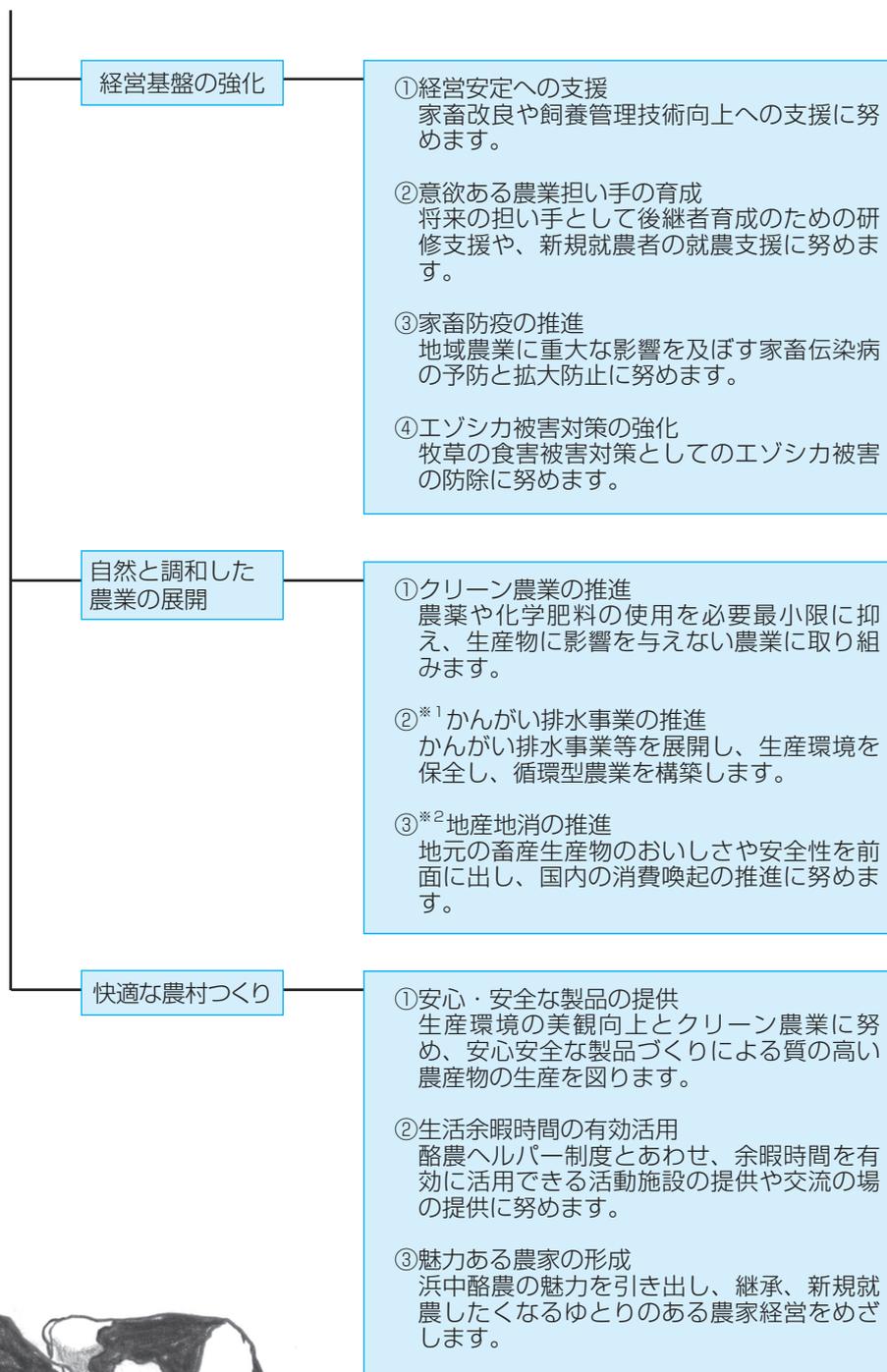
きな課題となっており、酪農をしっかりと守る後継者の育成と新規就農者の確保をさらに進める必要があります。

また、酪農経営の安定を図るため農地の集約や経費の削減に努め、自然環境、景観に配慮し、余暇等を楽しみ、後継することに魅力を感じる環境づくりを進めなければなりません。

《施策の体系》



生命支える大地と海
 自然と調和するまち
 はまなか
 ～未来につなごう 豊かな環境～



※農家戸数等の推計＝データ編 P84

※1 かんがい排水事業：田や畑に適正な水を曳き、土地を潤しながら生産物の管理を行う排水事業。
 ※2 地産地消：地域で生産したものは地域で消費していこうとする発想。

第2節 林業の振興

《現状と課題》

本町の森林面積は、16.093haで町域の38.0%を占め、国有林6.3%、道有林28.3%、町有林17.4%、私有林48.0%で構成されており、総森林面積の69.0%が保安林の指定を受けています。また、人工林、天然林の区分で見ると天然林が全体の69.7%を占めています。

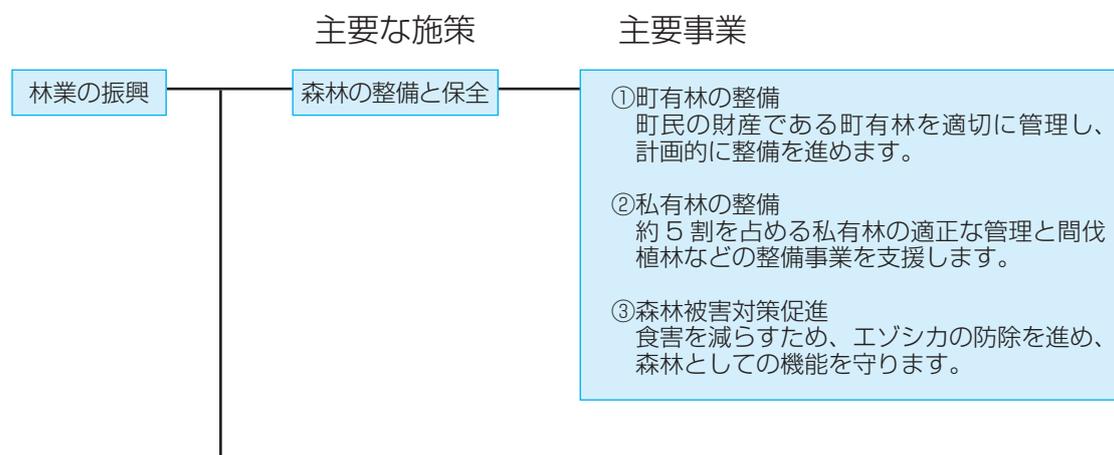
森林は、木材生産という経済機能のほか、国土の保全や環境の維持、水源のかん養、治山や保健・休養さらには地球温暖化防止等の多面的な機能を持っているほか、農業、漁業にあっても栄養豊かな土壌を形成しミネラルを海に流し魚や海藻を育てるなどの重要な役割をもっています。

近年の林業事情は、生産コストの上昇、外材主導による木材価格の低迷、代替材の進出など住宅建設の減少に伴い需要が停滞し採算性が悪化、加えてエゾシカ等による立木の食

害が深刻な状況にあり、森林所有者の経営に対する意欲の低下を引き起こす要因になっています。このため、森林を育て自然豊かな魅力ある林業をめざし、引き続き町有林管理事業や民有林造林事業を進めるとともに、道営による保安林整備事業を関係機関に要請し、林業の効率的な事業推進のための幹線林道や一般林道、作業道等の整備を図りながら、森林を観光と結びつけ余暇を楽しむための整備として*フットパスを整備していくなど、計画的な造林、保育、間伐施業の促進が必要です。

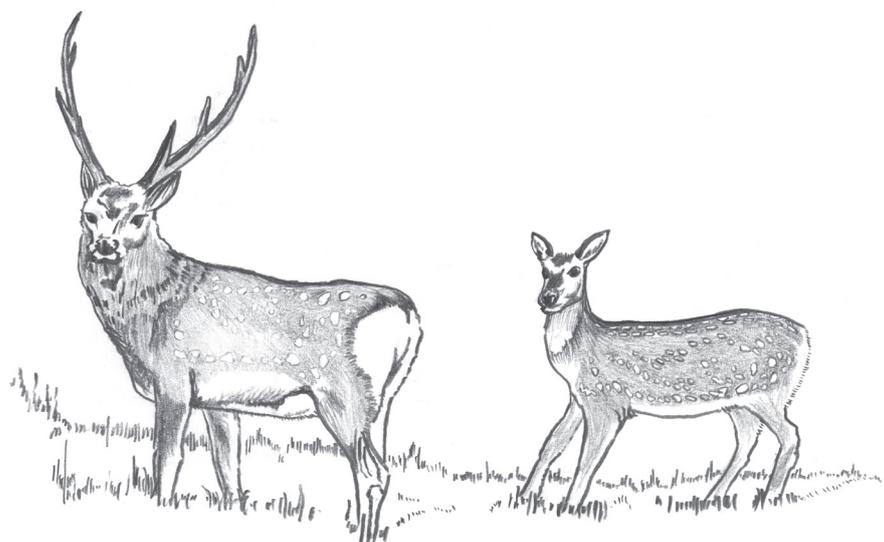
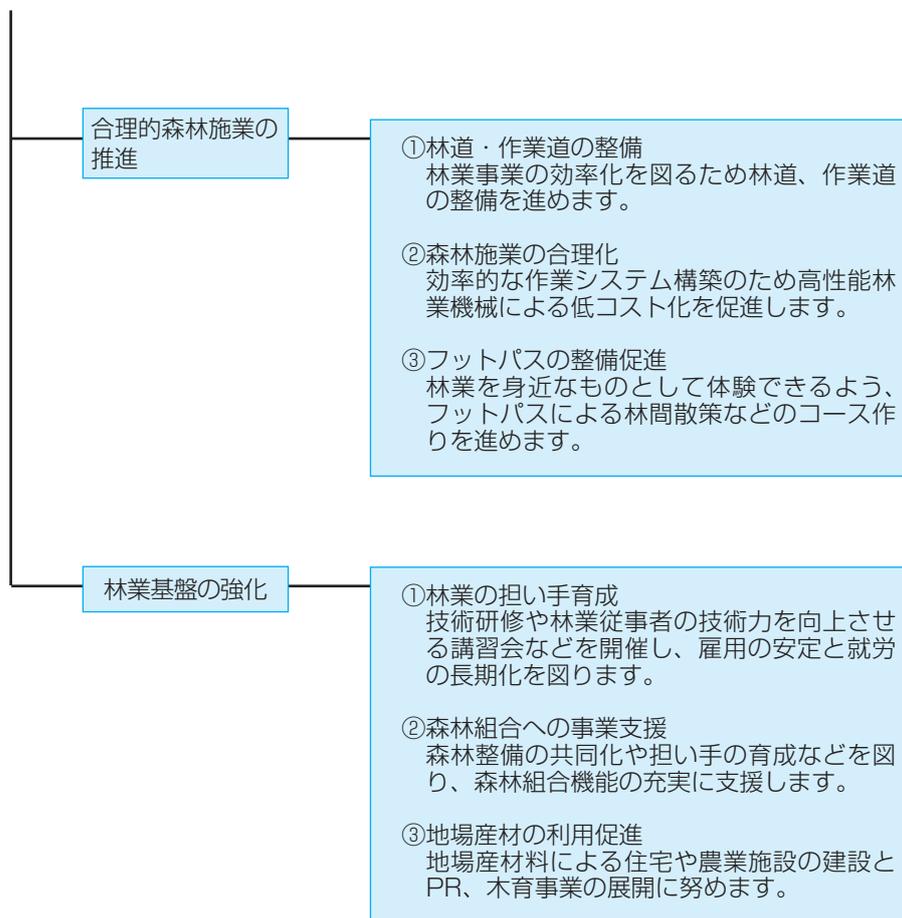
また、森林の持つ保健・文化・教育的機能の理解を深めるとともに、優れた天然林の保全や樹木を活かした市街地景観、集落景観の形成など自然保護やうるおいのある景観づくりが求められています。

《施策の体系》



*フットパス：簡易な散策路。多くは個人の所有地内などに散策を目的に整備が進められた道路

生命支える大地と海
自然と調和するまちはまなか
～未来につなごう 豊かな環境～



第3節 漁業の振興

《現状と課題》

本町の漁業は、資源水準の低下や輸入水産物の増大による魚価安、燃油高騰などにより漁業環境は悪化しており、漁業経営は厳しい状態が続いております。

特に大宗漁業である昆布漁については、雑海藻の繁茂などにより着生、生育不良が見られることや、漁業就業者の減少、高齢化が進み漁業生産体制のぜい弱化が進んでいることから、昆布漁場の保全、担い手の育成、確保や効率的な漁業生産体制の構築が重要となっています。

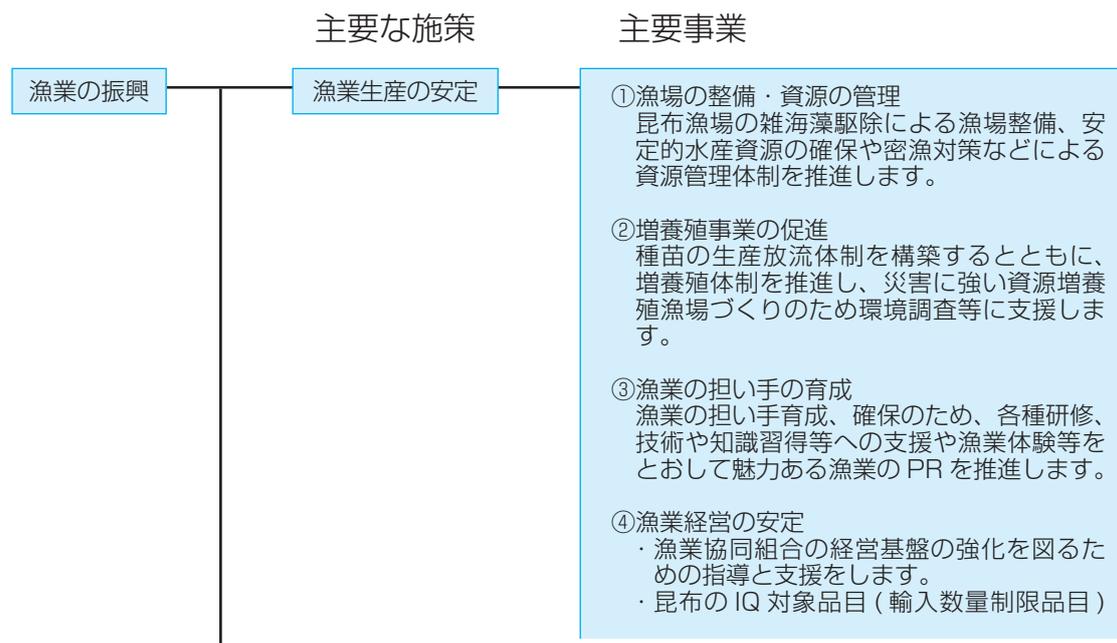
このため漁業者、産業団体、行政が一体となって、本町沿岸の自然条件を活かした資源の増大・栽培漁業など資源管理型漁業の推進

と生産基盤の整備による生産体制の確立が必要となっています。

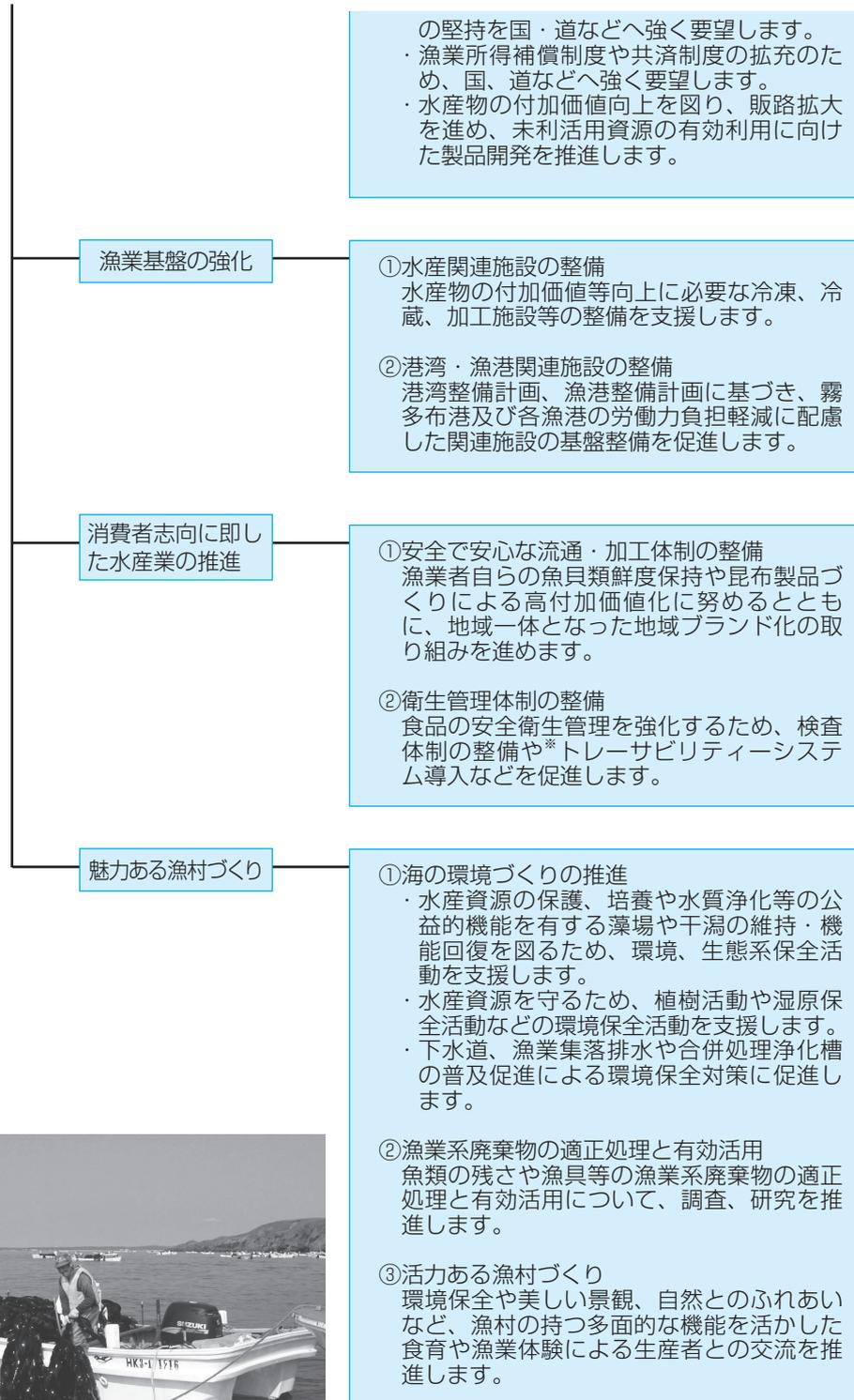
また、近年消費者の「食」の安全、安心に対する関心が高まっている一方で、水産物の消費量は減少傾向が続いていることから、漁獲・加工・流通に至る衛生管理体制の整備、販路拡大や愛食運動などが必要となっています。

一方漁村は、水産物の供給のほか漁村の持つ自然環境や生態系の保全、交流の場としての期待が高いことから、漁業系廃棄物の適正な処理、有効利用による海の環境づくり、漁村の生活環境基盤の整備、都市との交流や受け入れ体制などの整備が必要となっています。

《施策の体系》



生命支える大地と海
 自然と調和するまち
 はまなか
 ～未来につなごう 豊かな環境～



*漁家戸数及び漁業生産量、生産額の推移
 ※漁業生産高及び生産額
 =データ編 P84



*トレーサビリティシステム：店頭に並ぶ食品などの安全性や流通経路を、生産者を含め管理・追跡できる機能。

第4節 商工業の振興

《現状と課題》

本町の商業は、基幹産業である農業、漁業とともに、地域的な商圈形成により発展してきました。

近年の商業を取り巻く環境は、近隣地域の大型店の進出や消費行動の広域化により、町外への消費購買力の流出が拡大する一方、基幹産業である農業、

漁業の低迷等により、購買力の落ち込みなどが目立ってきています。さらには、少子高齢化などの人口減少により、商店等の経営が悪化して店舗の廃止など商店街の空洞化が進んでいます。

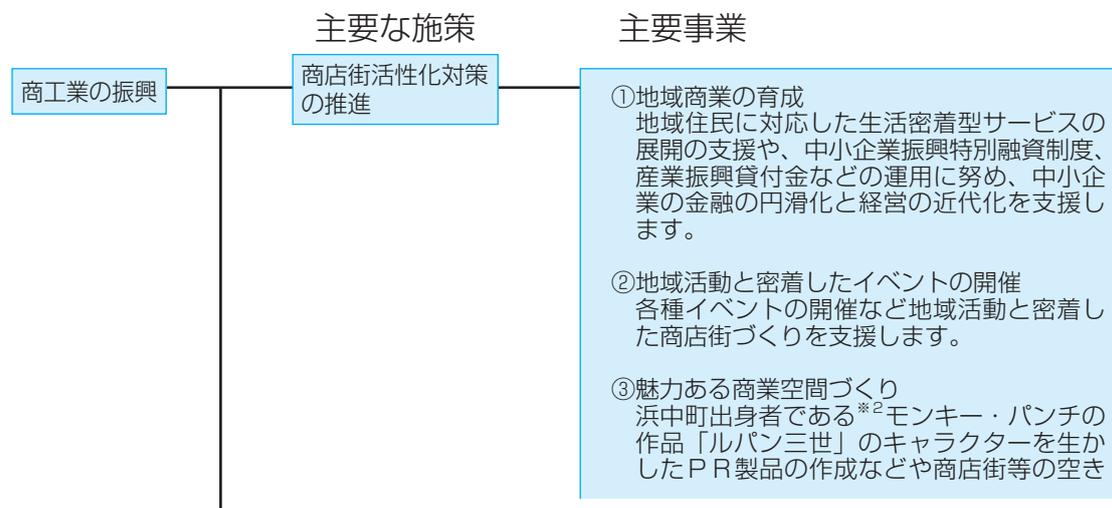
このため、農業、漁業、林業など消費者のニーズを捉え、個人経営の統合や、集落からの要望を捉えた配達システム等を検討しながら、購買力の流出防止に努め、活力と魅力のある商業をめざし、身近な生活の場で楽しく安心して買物ができるように、より地域に密着

した商店街づくりが必要となっています。

工業の振興としては、交通の立地条件や労働力の確保の制約などにより、企業の誘致は一向に進まず、基幹産業である農産水産物を中心とした小規模な加工製造業が主となっております。これからは基幹産業である農業・漁業が厳しいなか、これまでの生産物をそのまま出荷するのではなく、付加価値を高めることにより、生産の拡大と経営の安定を図ることができます。

今後も活力に満ちた生産性の高い工業をめざし、既存企業の育成、振興対策を講じるとともに、本町の豊富な農畜産物や魚介類などを加工する^{*1}1.5次産業を興し、地域内での付加価値生産と就労機会の創出、そして地域全体の産業構造の体質改善や支援体制の強化を図っていく必要があります。

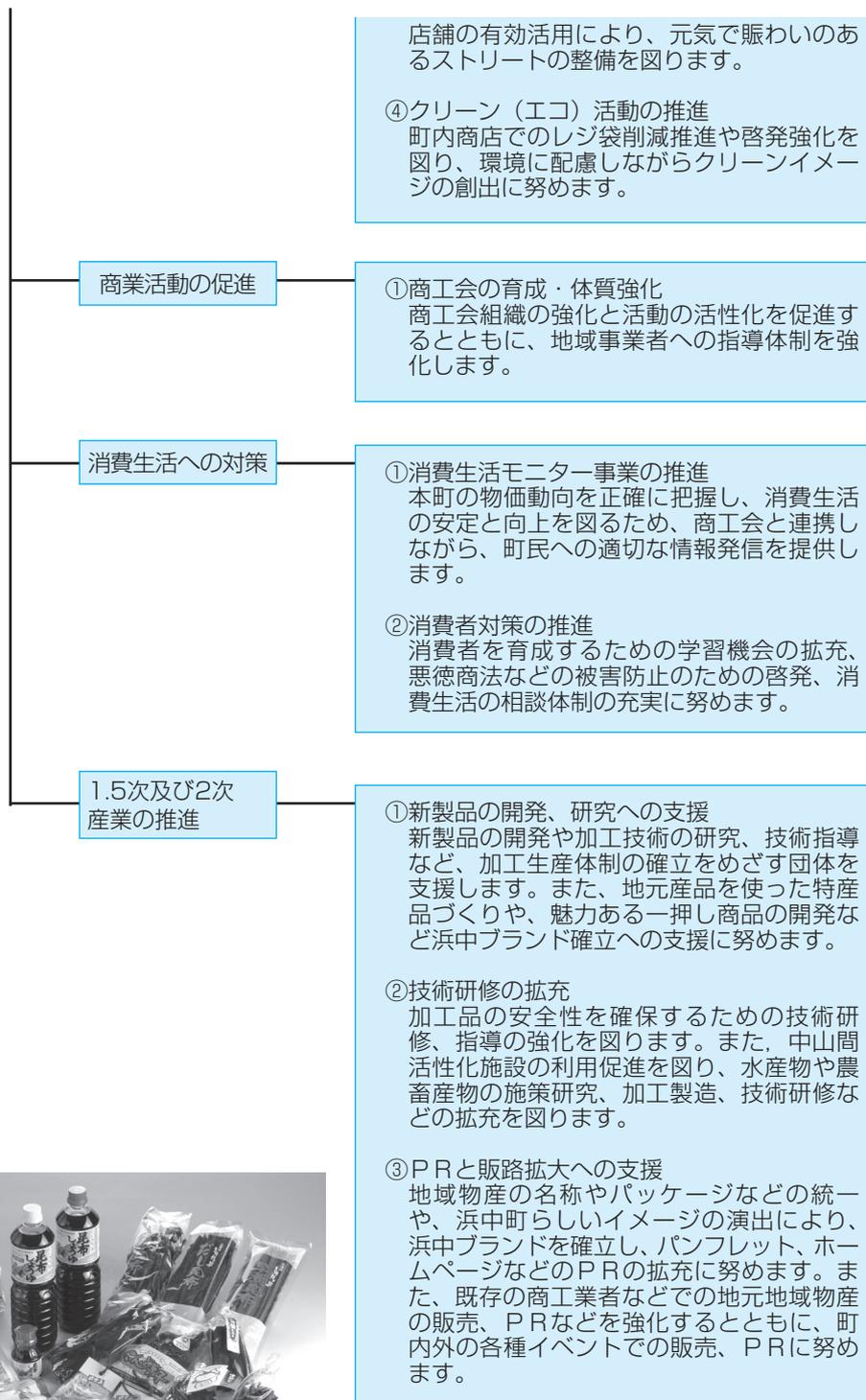
《施策の体系》



※1 1.5次産業：地域の農林水産物などを素材とした加工産業で、付加価値向上と雇用拡大などを狙いとしている。1次産業と2次産業が結びつくことから1.5次産業と呼ぶ。

※2 モンキー・パンチ：浜中町出身の漫画家。本名は加藤一彦さん。著名な漫画に「ルパン三世」がある。





昆布を使った特産品

※商店数及び年間販売額
 ※事業所数及び製造品出荷額
 =データ編 P84

第5節 観光業の振興

《現状と課題》

本町は、奇岩絶壁をみせる断崖、岬などの海岸線の景勝、海跡湖、国の天然記念物に指定されている霧多布泥炭形成植物群落など学術的に貴重な資源を有する厚岸道立自然公園を始め、牧歌的な風景の内陸部、その他貴重な野生動植物などの生息地として注目され、また、広大な大地での酪農や豊かな漁業資源など豊富な味覚素材と特色ある気候風土など、バラエティに富んだ価値の高い観光資源に恵まれています。

特に霧多布湿原は、ラムサール条約に基づく湿地として登録されるなど、国際的にもその価値が認められ、エコ・ツーリズムの理念による湿原の保護と賢明な利用（ワイズユース）により観光資源としてツアー等の事業展開を進めております。

近年、国内の景気の低迷が続いていることから、平成20年の観光客入り込み数は、302,664人となっており、平成12年度から減少傾向となっております。

宿泊については、平成13年度の振興公社浜中観光ホテルや浜中ユースホテルの閉鎖により、宿泊数が減少となっております。しかも、観光形態も「団体旅行」から「個人・グループ型」に推移し、「見る観光」から「体験・食」の目的を持った観光スタイルへと主流が移り変わってきております。さらに、社会情勢も変化し、従来の情報手段は旅行代理店や観光パンフレットでありましたが、インターネットの普及により、多様な観光情報が気軽に活用できる社会基盤が確立されております。

このような社会情勢の中、地域の資源や特性を活かした質の高いサービス提供が求められており、本町においては、産業（農業、漁業）から生み出される乳製品や魚介類、そして霧多布湿原や岬（海岸線）など、一級品の素材がありますので、これらを活かすために、関係機関（行政、産業団体、商工会など）の連携が不可欠となっております。

また、魅力ある観光地づくりには、観光客をもてなす環境基盤が必要で交通網の確保、宿泊施設の充実、ガイド等の人材育成、本町でしか味わえないグルメ開発や^{*1}グリーンツーリズム、^{*2}マリンツーリズムなど農山漁村の地域特性を生かした体験と食、歴史、文化を伝えることが重要で、浜中町の魅力を創出することにより、滞在型観光を振興する観光地づくりが可能となります。

さらに、観光を振興するため国定公園への昇格を推進するとともに、首都圏の中老年層が涼を求めて訪れている本町へキャンピングカーでの長期滞在が増加している状況から、宿泊施設や空き家等を活用した避暑地型観光の推進や四季それぞれの魅力や地域の個性を生かしたイベントの開催など、四季を通じて楽しめる観光資源の開発に努め、交流の拡大により地域の活性化を図り「通過・周遊（立ち寄り）型」の観光から「滞在型」観光を図ることが必要となっております。

※1 グリーンツーリズム：都市住民などが、農山村において自然・文化・人的交流などを楽しむ滞在型の余暇活動。
※2 マリンツーリズム：漁業や漁村の生活・文化にふれながら他地域の人々との交流を楽しむ滞在型の旅行形態や余暇活動。